

PARNASSIUS

創立 10 周年記念号

№ 16

目 次

淡路昆虫同好会 10 周年によせて	奥谷 禎一	1
先山のヒメハルゼミについて	堀田 久	2
淡路島の甲虫相	高橋 寿郎	3
クロフオオシロエダシヤクの吸水について	登日 邦明	9
9 月にクロシオキシタバを採集	堀田 久	10
先山の昆虫相 (I)	堀田 久	11
三熊山でスミナガシを目撃	登日 邦明	32
淡路島産バッタ類追加 (II)	山崎 俊道	33
淡路島産蜂類覚え書 (II)	登日 邦明	34

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

November 1976

淡路昆虫同好会 10周年によせて

奥 谷 禎 一

淡路昆虫同好会創立10年を迎えたこと、誠によろこびにたえない。十年一昔という言葉があるが、同好会を支えた人々の苦勞は大変なものであったにちがいない。限られた人口の中で、昆虫に興味をもつ少数の人々に支えられた同好会は財政的にも人材の面でも楽ではなかったであろう。深く敬意を表するものである。

今までの10年は、淡路の自然破壊も前半はゆるやかに、後半はスピードアップされた感じがする。恐らく、次の10年は、鳴門大橋の架橋もあり一層スピードアップされそうな様子が見える。淡路は“花とミルクの島”と宣伝されているが、私の見る所では、“観光と自然破壊の島”としかうつらない。瀬戸内海国立公園地域まで人工物がのさばりだした。この有様では、一日も早く淡路の昆虫相の解明を急ぎ、破壊によりどのように変化するかをしらべておく必要がある。その一つの手がかりは、植生調査の結果(1971年に神戸女学院大の矢野悟道教授らにより行われ、翌年県より印刷されている)がある。飛翔力や分散力の強い種類は困難ではあるが、その弱いものの場合、例えばクチキコオロギやヒメハルゼミでは、産地のみを記録するのではなく、探査した地区も明記して、見落としはあると思われるが、発見できないといった記録も必要であろう。ヒメハルゼミの最初の記録は八木村馬廻であるが、正確な場所はわからない。しかし、シイカシ林は成相寺にしかない点から考えて、ここに違いないと思われるが、今日では全くいない。諭鶴羽山の分布状態から想像をたくましくすると、山頂の原生林にはずっと生息していて、谷沿いに下ってきて、その先端が成相寺であったと思われる。その後、山は伐採され、一部には植林が行われ、遂に山頂に発生したゼミも谷を下ることができなくなり、現在の状態となった。あるいは、昭和8年当時の成相寺のシイ林はもっと密であったのかも知れない。また、成相川にはゲンジボタルが多数生息していて、“成相ボタル”と呼ばれていたが、ダム建設と共に姿を消し、今日のは滋賀県からの移入だと聞いている。このようなことも正確な記録をとどめておかないと、後世の混乱のもとになりかねない。現在では色々の昆虫について、密度をうまく表現できないが、できれば密度についての記録も必要であろう。ただ一番困るのは、正確な記録が出るとマニアにねらわれ、ものによってはたちまち絶滅してしまう可能性もあることである。

最後に、私が淡路の諸兄に望みたい緊急を要する問題は、海浜性昆虫の調査である。海岸は次々に埋立てられ、海の汚染もひどくなっている。岩礁に、砂浜に、特種の昆虫が棲んでいるが、

海の汚染で死滅するものもあるであろうし、埋立ててしまえば、全くいなくなると考えられる。恐らく、オオヒョウタンゴミムシなどは本土では、もう生息地はないかも知れない。そのほか、いろいろな海浜の昆虫が失われたにちがいない。

もう一つの緊急課題は、マツの枯損に対する殺虫剤の航空散布であろう。現在の技術では、マツの枯損を減らすには、マツノザイセンチュウの運搬者であるマツノマダラカミキリの密度を低下させる方法しかない。そのために行われる航空散布であるが、生態系に及ぼす影響はいかにも大きい。私の知る限りでは殺虫剤に対して最も弱いのは膜翅目類のようで、空散の行われた地域ではアシナガバチなどが殆どいなくなっているのではないかと心配される。食葉性昆虫の有力な天敵が減ることは、かえって他の害虫を増加させることになるのではないだろうか。人伝てに聞く所によると、ウグイスの営巣が空散の翌年では半減するということである。林業関係者では調査のできない問題である。調査法は色々あるが、関心のある方には私の用いた方法をお伝えしたいと思っている。

最後に、淡路昆虫同好会が今後さらにユニークな発展をとげ、日本の昆虫同好会のリーダーになることを祈る。

(神戸大学教授)

先山のヒメハルゼミについて

昨年(1975)の7月21日、青雲中学校生物班の梶田、山形両君が、先山東茶屋の横でヒメハルゼミ *Euterpnosia ohibensis* Matsumura の合唱を聞いていたが、本年(1976)7月22日には、青雲中学校生物班員の川臨元浩君が、先山でヒメハルゼミの♂を1頭採集した。場所は東茶屋から加茂の方へ少し下ったあたりの原生林中で、昼でも暗いようなところである。筆者も少し後で同じ場所へ行って鳴き声を聞き、また、その近くで脱皮殻を採集した。なお、合唱から推察すると鶴鶴羽山よりは少ないが、付近の環境もよく、かなりの個体が発生しているものと思う。

(梶田 久)

淡路島の甲虫相

(兵庫県産甲虫相資料・56)

高橋 寿郎

はじめに

本年3月7日兵庫県生物学会30年記念出版「兵庫の生物記」の原稿読み合せの会が明石高校の生物講義室で開かれ、その席上で登日邦明氏にお目にかかり、色々お話をした際本年は淡路昆虫同好会の創立10年になるので、Parnassiusを特集号にしたいから何か原稿を書くようにとの依頼を受けた。そこで淡路島の甲虫相に就いての総括的なものをまとめて発表させて頂くことにした。

兵庫県下の甲虫相調査に就いては既に40年近く続けており、数多くの記録業績も整理され、1976年現在101科、2634種をまとめることが出来ている。淡路島の甲虫相も可成りまとまっており、兵庫県下で淡路島にのみ分布が知られている種もあり、この島の甲虫相もなかなか面白いものがある。

淡路島での甲虫相に就いては地元の堀田久氏(1958~1975)を始め、大野正男氏の淡路島のハムシ類(1969, 1970)と愛媛大学農学部昆虫学研究室の方々による調査報告(1973, 1974)がその大部分を占め、筆者自身の北部地区における数回にわたる採集調査結果をも合せてその大部分がまとめられていることになる。尚、引用文献名については一切省略した。1974年末迄のものについては筆者自刊「兵庫県産甲虫類に関する文献目録, 1975」を参照して頂きたく、1975年以後のものについては近くこの目録の改訂版を発刊予定しているのでそれを参照して頂きたい。

末文で恐縮だが、本報告発表の機を与えて下さった登日邦明氏に厚くお礼申し上げたい。

淡路島の甲虫類

淡路島に産する甲虫類で現在記録されている科別の種類数と現時点で同島にのみ産すると考えられる種名(兵庫県下で他に記録のない種)を記し、注目すべき種に若干の解説を試みた。(種数の後の括弧内の数は兵庫県産の種類数)

1. セスジムシ科 (Family Rhysodidae), 1種(2).

チャイロヒラタセスジムシ *Clindium veneficum* Lewis. この科のものは枯木とか樹皮下に見られるようであるが、その生態は不明な群で堅固な体の背面に刻まれた深い条溝や頑丈な数珠状の触角によって特徴づけられる。世界から120種知られており日本産は2属7種で兵庫県下からは2種記録されている。この種は先山からのみ知られており(久松, 1974)。他の1種は扇の山に産する。

2. ヒゲブトオサムシ科 (Family Paussidae), 1種(1).

3. ハンミョウ科 (Family Cicindelidae), 2種 (10)

ヨドシロヘリハンミョウ *Cicindela nivivincta yodo* Nakane, 沼島からの記録がある(石田, 1970)。尼崎市市内での産が絶滅したのではないかとされているだけに沼島にいてほしいものである。ハンミョウ科については淡路島のような環境であればもっと分布種がいると考えている。

4. オサムシ科 (Family Carabidae), 35種 (271).

アキオサムシ *Apotomopterus japonicus chugokuensis* Nakane, 先山での記録がある(久松, 1973. 日浦, 1971)。この種は中国地方に分布する種で現在篠山が東限地として知られているが兵庫県下の分布は割合限定されている種である。先山(洲本市), 篠山(多紀郡), 以外に出石町(出石郡), 大槻山, 船越山(佐用郡), 水の山(養父郡)の産地が知られている。篠山には個体数が多いようであるが大槻山では余り多くない(筆者は9♂, 13♀採集している)。

オオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* Olivier, 吹上の浜にいたことが記録されており(堀田, 1973. 奥谷, 1975), 戦前兵庫県瀬戸内側海岸線沿いに分布しており, 特に浜ノ宮あたりに多く産することで有名であったが, 戦後海岸線そのものが全く変ってしまい砂浜など皆無の状態では本種がいるのかどうか分からない状況下で淡路島には確実にいることがわかり大変うれしい。

チャイロホソヒラタゴミムシ *Agonum (Atranodes) kyushuensis* Habu, 福良(久松, 伊藤, 1973), 兵庫県他の地での記録が無い, 良く似た種が多いので同定が困難である。

5. コガシラミズムシ科 (Family Haliplidae), 1種 (6).

6. ゲンゴロウ科 (Family Dytiscidae), 4種 (36).

スジゲンゴロウ *Hydaticus vittatus* Fabricius, 淡路から採集されているという記録がある(関, 1945)。残念ながら詳しい産地採集年月日が無い, 県下でも今の所全く記録が無い種である。

7. ミズスマシ科 (Family Gyrinidae), 3種 (7).

8. ガムシ科 (Family Hydrophidae), 2種 (34).

9. エンマムシ科 (Family Histeridae), 4種 (23).

アラメエンマムシ *Hister punctulatus* Wiedemann, 岩屋で1ex., 採集しているが(26-IV-1959), 県下どこにも記録がない。

10. ムクゲキノコムシ科 (Family Ptiliidae), 2種 (2).

エビチャハバネムシ *Acrotrochis cursitans* (Nietner), ムナグロムクゲキノコムシ *A. lewisii* (Motthews) 共に福良からの記録で(久松, 1973), この科のものは兵庫県下から2種が知られているだけで2種共淡路島産の特産種である。

11. タマキノコムシ科 (Family Leiodidae), 2種 (10).
 オオサワタマキノコムシ *Leiodes osawai* Nakane, 諭鶴羽山 (久松, 1974),
 ヒトツメタマキノコムシ *Liadopria maculicollis* Nakane, 常隆寺山で 1 ex., を
 採集 (20-N-1974), とともに県下では他の地で知られていない。
12. テオキノコムシ科 (Family Scaphidiidae), 1種 (24).
13. ハネカクシ科 (Family Staphylinidae), 13種 (220).
Oligota (Holobus) yasumatsui Kinsten, 常隆寺山 (久松, 1973), ツヤケ
 シヒゲフトハネカクシ *Aleochara (Emplenota) fuscicola* Sharp, 灘 (久松,
 1973), とともに兵庫県下の他の地での産が知られていない。この仲間は小さく余り注意がさ
 れないグループなので調査不充分といえる。
14. アリヅカムシ科 (Family Pselaphidae), 4種 (16).
Tyrus japonicus Sharp, 諭鶴羽山 (久松, 1973), この仲間も全般に調査不充分
 のグループである。この種は他に今の所記録が無い。
15. クワガタムシ科 (Family Lucanidae), 7種 (15).
16. センチコガネ科 (Family Geotrupidae), 1種 (3).
 淡路島に産するセンチコガネは淡路島型として近畿各地の型と別けられるということである
 が、兵庫県下産の各地点での採集標本から眺めた場合黒色に近く特に先山産の標本は形もやや
 小型で一見異なったような感じがする (この先山産の標本は堀田氏の御厚意で筆者の手許にある)
 が、岩屋産の標本と明石市内産の標本は割合似かよった色彩をしているように思われる。もっ
 と個体数を集めて比較すると色々の結果が出ると考えられるが最近糞虫の数は可成り減少して
 いるように思われる。
17. コガネムシ科 (Family Scarabaeidae), 46種 (145).
 マメダルマコガネ *Panelus parvulus* (Waterhouse), 諭鶴羽山 (久松, 1973),
 セマルオオマグソコガネ *Aphodius (Otophorus) brachsomus* Solshy, 岩屋 (18,
 30-N-1943), 他に Hiogo [Waterhouse, 1875] の記録があるが現時点では淡路島
 特産かと考えている。ヒメハナムグリ *Oxycetonia forticula* (Janson), 福良 (久
 松, 1973), 以上3種は兵庫県下では淡路島特産である。
18. マルハナノミ科 (Family Helodidae), 1種 (6).
19. ヒラタドロムシ科 (Family Psephenidae), 1種 (3).
20. タマムシ科 (Family Buprestidae), 14種 (66).
Endelus japonicus Obenberger, 三熊山 (久松, 1974), 本種は黒沢博士によ
 ると日本には産しないようで、日本産のものは E. sp. アカガネエグリタマムシとして未記載
 の種のようなのである。(黒沢, 1975)。
21. コメツキムシ科 (Family Elateridae), 5種 (107).

アカアシコハナコメツキ *Paracardiophorus sequens* (Candèze), 阿万西町(久松, 1974), Kobeの産が記録されているが(1871, G. Lewis leg., Miwa, 1934). 現在淡路島だけの産と考えている。

22. ヒゲトコメツキ科 (Family Trixagidae), 1種(2).
23. コメツキダマシ科 (Family Eucnemidae), 1種(14).
24. ホソホタルモドキ科 (Family Omethidae), 1種(2).
25. ジョウカイボン科 (Family Cantharidae), 5種(29).
26. ベニボタル科 (Family Lycidae), 1種(33).
27. カツオブシムシ科 (Family Dermestidae), 1種(13).
28. シバンムシ科 (Family Anobiidae), 2種(12).

セスジタワラシバンムシ *Xyletinus japonicus* Pic. 先山(酒井, 1975), ツガ
タケミゾシバンムシ *Mizodorcatoma pinicolae* N. Hayashi, 三熊山(酒井, 1974).
共に淡路島以外県下での産が知られていない。

29. ケシキスイ科 (Family Nitidulidae), 12種(70).

ウスチャデオキスイ *Caraphilus freemani* Dobson, 福良(久松, 1973),
Epuraea foveicollis Reitter, 常陸寺山, 三熊山(久松, 1973), アミモンヒラタ
ケシキスイ *Physoronia hillier* (Reitter), 諭鶴羽山(久松, 1973), 以上3種は
淡路島にのみ産することが知られている。

30. タマキスイ科 (Family Cybocephalidae), 1種(1).

キムネタマキスイ *Cybocephalus nipponicus* Endrödy-Younga, 常陸寺山(久松, 1973), 本種は兵庫県下での地のみから知られており、この科も兵庫県ではこの地以外に知られていない。

31. ヒラタムシ科 (Family Cucujidae), 1種(11).

キイロケシヒラタムシ *Placnotus testaceus* (Fabricius), 諭鶴羽山(久松, 1974), 兵庫県下では他に産地を知らない。

32. ホソヒラタムシ科 (Family Silvanidae), 5種(7).

Silvanoprus inermis (Reitter), 福良(久松, 1973), *S. javanicus* (Grouvelle), 福良(久松, 1973), 共に兵庫県下で他に産地を知らない。

33. オオキスイムシ科 (Family Helotidae), 1種(1).

34. キスイムシ科 (Family Cryptophagidae), 3種(15).

35. ムクゲキスイムシ科 (Family Biphyllidae), 1種(2).

36. コメツキモドキ科 (Family Languriidae), 1種(9)

ヒラナガムクゲコメツキモドキ *Cryptophilus obliteratus* Reitter, 常陸寺山(久松, 1973), 本種も県下では淡路島にのみ産する。

37. オオキノコムシ科 (Family Erotylidae). 1種 (30).
 セモンホソオオキノコムシ *Dacne picta* Crotch. 論鶴羽山 (久松, 1973). この種も県下で他に産地が知られていない。
38. ヒメハナムシ科 (Family Phalacridae). 1種 (10).
 エムモンチビヒメハナムシ *Stilbus polygramma* Flach. 先山, 福良 (久松, 1973), 兵庫県他に産を知らない。
39. ミジンムシ科 (Family Corylophidae). 2種 (4).
40. テントウムシ科 (Family Coccinellidae). 16種 (64).
 ムモンヒメテントウ *Nephus kompirasanus* (H. Kamiya). 先山, 三熊山 (久松, 1974), オニヒメテントウ *Scymnus (Pullus) gigantes* (H. Kamiya). 三熊山 (宮武, 古木, 1973), 両種共兵庫県での産は淡路島だけである。
41. テントウダマシ科 (Family Endomychidae). 2種 (17).
42. ミジンムシダマシ科 (Family Discolomidae). 1種 (2).
43. ヒメマキムシ科 (Family Lathridiidae). 5種 (8)
Corticaria japonica Reitter. 福良 (久松, 1973), この地でのみ知られている。
44. ツツキノコムシ科 (Family Cisidae). 1種 (8).
45. ゴミムシダマシ科 (Family Tenebrionidae). 9種 (80).
 ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia vestita* Marseul. 阿万西町 (久松, 1974), 他の海岸線での産が知られていない。
46. ハムシダマシ科 (Family Lagriidae). 2種 (9).
47. クチキムシ科 (Family Alleculidae). 2種 (15).
48. チビキカワムシ科 (Family Salpingidae). 1種 (2).
 マメチビキカワムシ *Lissodema myrmido* Marseul. 論鶴羽山 (久松, 1974), 本種も淡路島産だけ知られている。
49. ハナノミ科 (Family Mordellidae). 3種 (38).
 チャオビヒメハナノミ *Mordellina (Pseudomordellistena) brunneotincta* (Marseul). 論鶴羽山 (酒井, 1974), ナミアカヒメハナノミ *Falsomordellina luteoloides* (Nomura) (酒井, 1973), 共に県下での産は他に知られていない。
50. カミキリモドキ科 (Family Oedemeridae). 1種 (21).
51. アリモドキ科 (Family Anthicidae). 4種 (23).
52. ニセクビボソムシ科 (Family Aderidae). 1種 (2).
 オビモンニセクビボソムシ *Aderus quadrimaculatus* Marseul. 福良 (久松, 1973), 本種も淡路島からのみ知られている。
53. カミキリムシ科 (Family Cerambycidae). 60種 (252).

トゲヒゲヒメカミキリ *Allotraeus rufescens* (Pic), 洲本市安乎町から堀田氏が記録されている(1973)。兵庫県下からは西宮市から関氏が *A. asiaticus* Schwarzer なる学名で記録されたのがあるだけで(1939)、現在本種は淡路島からのみ知られている種と考えている。

チャイロヒメカミキリ *Ceresium similee* Gahan, 淡路島南部海岸地のフェリーポート港の事務所の蛍光灯に飛来したものを採集したとの記録がある(18, 長尾, 1969, 堀田, 1973)。

カミキリムシ類は割合調べられているようであるが地域的にハナカミキリ類が大変少ない点が大きな特徴である。

54. マメゾウムシ科 (Family Bruchidae), 1種(10)。

55. ハムシ科 (Family Chrysomelidae), 94種(252)。

ヘリグロタマトビハムシ *Sphaeroderma ohkuboi* Chūjō, 福良(久松, 1974), シンダゴグミトビハムシ *Zipanginia tuberosa* Ohno, 論鶴羽山, 成相峠, 鮎屋(大野, 1969), 2種共兵庫県下ではこの地のみである。

56. オトシブミ科 (Family Attelabidae), 10種(49)。

57. ホソクチゾウムシ科 (Family Apionidae), 3種(12)。

ケブカホソクチゾウムシ *Apion (Catapion) griseopubescens* Roelofs, 福良(宮武, 1973), 兵庫県の他の地では産地が知られていない。

58. ゾウムシ科 (Family Curculionidae), 35種(203)。

ハイイロヒョウタンゾウムシ *Scepticus uniformis* Kōno, 福良, 阿万西町(宮武, 1973), チビクチカクシゾウムシ *Deiradocranoides setosus* Morimoto, 論鶴羽山(宮武, 1973), クスアナアキゾウムシ *Hylobius orientalis* Motschulsky, 先山(堀田, 1975), 上記3種は淡路島からのみ知られている種である。

59. オサゾウムシ科 (Family Rhynchoridae), 4種(12)。

ニセキクイサビゾウムシ *Dryophthoroides sulcatus* Roelofs, 先山(宮武, 1973), 淡路島からのみ知られている。

60. キクイムシ科 (Family Scolytidae), 1種(44)。

ウスキイロキクイムシ *Cnestus murayamai* Schedl, 論鶴羽山(宮武, 1974), 本種も淡路島から知られているだけである。

以上淡路島産の甲虫類として現在わかっているのは60科、447種である。始めに記したごとく現在の兵庫県産甲虫類は101科、2,634種がわかっているので兵庫県産の甲虫類の約20%程度が淡路島に産することになる。但し全般的に調査不充分だという印象を受ける。例えば、オサムシ科、ハネカクシ科を例に見てももっと多くの種がいると考えられる。従って之からの調

査でより一層種類は増えることと思われるし、新知見の現われてくる可能性も多い(尤も面積から云えば三原郡・津名郡を合した所謂淡路島の面積は兵庫県全体の5.8%であるから、この点から見れば種類数は大変多いことになる)。

一般的には兵庫県内での南に位置している関係から北方系の種が少ないのは当然であるが、海浜性の甲虫類などは兵庫県の他の地がほとんど駄目になった現在大切に保護してやり度いものである。

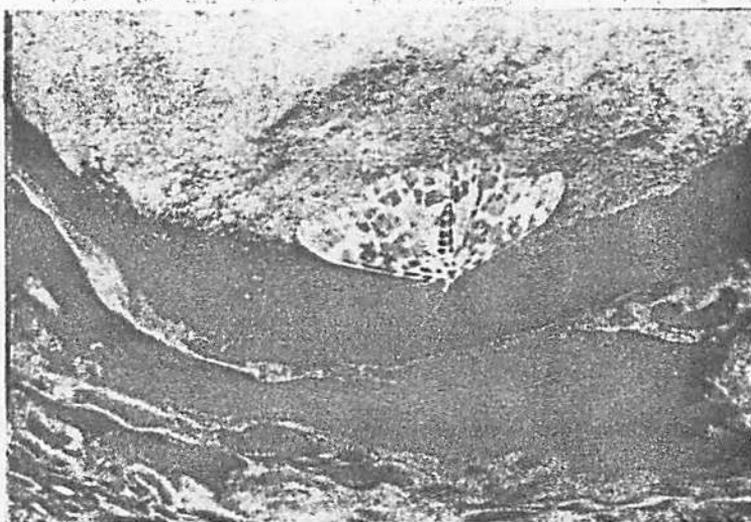
淡路島だけで知られている種が44種ある。中国地方から兵庫県下に点在的に分布しているアキオサムシを産したり、可成り変わった形態のセンチコガネがいたり、北方系のチャイロヒラタセスジムシを産したり等々この島の甲虫相は思ったより豊富である。ただ本四架橋とか島内縦貫道路の建設とか自然破壊的な計画が多くある。たゞ何んでも反対・反対ということではなく自然との調和を考えた計画の実施を切に望みたいものである。

(10 - IV - 1976)

クロフオオシロエダシャクの吸水について

登 日 邦 明

蛾類の吸水活動は、アメリカでは古くから興味深い観察が多くなされており、シャクガの1種ヤカギバの1種が、夜間に水を呑んでは尻から出すという“pumping”活動などはよく知られているところであるが、本邦では一般的な吸水例もほとんど報告されておらず、2-3の例を知るのみである。



吸水するクロフオオシロエダシャク *Pogonoprgia nigralbata nigralbata* Warren

筆者は、1976年5月9日に洲本市鮎屋・鮎尾ダム上流（通称 奥山待合）で、クロフオオシロエダシヤク *Pogonopygia nigralbata nigralbata* Warren の吸水活動を観察したので記録しておきたい。

この日は、柳高校生物部の合宿で、前日より部員5名と山崎俊道氏と共にこの地に来ていたのであるが、ベース・キャンプより奥へ10数分登った鮎屋川の源流が道を横切っている地点に差し掛った瞬間、斜め前方より中型の白っぽいシヤクガが飛来し、飛び石の1つに降りたのを目撃した。

目前の飛び石に降りたシヤクガは、数秒後には水が石に染みているところまで数センチ・メートル歩き、すぐ口吻を伸して吸水を開始した。近よってよく観察すると、この白っぽい中型のシヤクカは、クロフオオシロエダシヤク（雄）のやや古びた個体であった。吸水を始めたこの個体は、途中で何度か口吻を動かしていたが、大半は口吻を伸した状態で吸水を続け、約12分後に飛び去るまで同じ位置で吸水活動を続けた。

接写装置を持ち合わせていなかった筆者は、標準レンズで限界の35センチ・メートルの位置まで接近して写真を数枚写したが、水音のためか蛾は気付かずに吸水を続けた。

尚、当日の天候は晴れで日中は暖かであったが、“pumping” は観察できなかった。

参 考 文 献

- 羽淵 彰（1970） 夜間に吸水する蛾。 佳香蝶 22(83):92。
田中 蕃（1971） 蛾の吸水について。 —— 22(85):174-175。
江島正郎（1973） ウスアオシヤクの吸水。 蛾類通信 (75):253。

9 月 に クロシオキシタバ を 採 集

本年（1976年）9月12日の夕方、洲本市安乎町の筆者の自宅で壁に止まっていたクロシオキシタバ *Catocala kuangtungensis* Mell のほぼ完全なものを1頭採集した。なお本年8月11日にも同じ場所で本種を1頭採集したが、これまでに安乎町で採集している *Catocala* は、キシタバ *C. patala* C. et R. Felder とコガタキシタバ *C. praegnax* *esther* Butler だけで、クロシオキシタバは採集していなかった。 （堀田 久）

先山の昆虫相 (I)

堀田 久

はじめに

先山は標高わずか448 mではあるが、淡路島のほぼ中央部に位置し、淡路富士の名で島内の人々に親しまれている。頂上には淡路33ヶ所第1番の札所として知られる千光寺があり、行政上は洲本市に属している。

先山の植物は豊富で、暖地性のものが多く自生し一部に原生林が残されているなど、植物分布の上からは極めて興味深いものがあり、古くからよく調査されていたようである。しかし、昆虫類については最近まで殆ど調査されず、これまでの先山に関する昆虫の記録は筆者が1956年に「淡路島の蝶類」の中でふれたのが最初のものである。その後1958年と、1959年に若干の甲虫類についても記録したが、近年になって大野正男氏(1969年)はハムシ類36種を記録した。愛媛大学農学部昆虫学研究室のメンバー(1973年、1974年)は、本四架橋ルート上の島々の昆虫を調査し、昆虫類全般に関する目録を報告している。さらに登日邦明氏(1974年)は、蝶類35種の分布資料を公にした。

筆者と先山とのつながりは、今から30年余も前にさかのぼる。洲本中学2年の夏のこと父や兄と共に中川原の庚申堂から先山に登り、千光寺の本堂前で初めて見たアサギマダラの優美な姿が、またゴマダラチョウやジャコウアグハを初めて自分の手で採ったその時の嬉しさが、いまだに忘れられないのである。現在保有する先山産の標本で最も古いのは1946年採集のものであるが、本格的に先山の昆虫調査を始めたのは1950年からで、その頃途中で雨に降られてずぶぬれになったこと、当時担任していた志筑中学の1年生30人ほどと自転車で採集に行ったこと、生物班の生徒と夜間採集を行ない千光寺の宿坊に泊めてもらったことなど、先山に関する思い出はつきない。

その後西宮市で20年近く勤務していたため、先山へは夏休みにたまに行く程度であったが、数年前から郷里の淡路島に戻り、島内の昆虫全般について分布調査を行なうようになってから先山へは最も多く足を運んでいる。その結果は淡路昆虫同好会誌に何度か報告してきたが、同好会の創立10周年記念号発刊に当り、先山の昆虫全般についてまとめてみようと思いついた次第である。先山での調査回数こそ後述のように30回を越えているが、蝶を目的としたことが多かったのと、時期的なかたよりなどのため調査はまだ不十分なものである。今後の調査研究にいくらかでも役立つことを期待し、この豊かな先山の自然がいつまでも残されることを念じながら、これまでの知見について述べてみたいと思う。

本稿を草するに当り、貴重な資料をいただいた愛媛大の久松定成先生並びに東洋大の大野正男先生、常々有益な助言をいただいている登日邦明氏、また先山での採集のおり宿泊等の便宜をは

かっていたいた千光寺の方々と、西茶屋の^{まかて}先山さんに厚くお礼を申し上げる。

調 査 期 日

1946年8月17日
1947年9月1日
1949年8月4日
1950年8月10日、8月16日
1951年6月17日、7月23日、8月7日~8日
1952年8月3日、8月12日~13日、10月3日
1953年8月13日~14日
1955年8月14日
1958年8月8日
1965年8月11日
1970年8月8日~9日
1973年4月29日、6月3日(午後)、6月24日(午後)、9月15日
1974年4月29日、6月9日(午後)、8月3日、9月30日
1975年6月3日(午後)、7月21日~22日
1976年5月22日(午後)、7月3日(午後)、7月5日(夕方)、7月8日(午後)、
7月22日~23日、8月12日~13日、9月23日

目 録

- (1) 本目録には学名、和名のほか文献上の記録、採集記録なども併記した。
- (2) 文献上の記録は、報告者名と()内に発表年を記すことによって示した。
- (3) 採集記録は、筆者が現在保有する標本のうち、未発表のものすべてについて、個体数と採集年月日を記したが、すべて筆者自身の採集品であるため採集者名は省略した。

LEPIDOPTERA 鱗翅目

Hesperiidae セセリチョウ科

1. *Erynnis montanus* Bremer ミヤマセセリ
登日(1974)
2. *Thoressa viria* Murray コチャバネセセリ
登日(1974) 28, 12. VII. 1976
3. *Isoteinon lamprospilus* C. et R. Felder ホソバセセリ
登日(1974), 石原他(1974), 19, 13. VII. 1976

4. *Potanthus flavum* Murray キマダラセセリ
登日(1974), 1♀, 23. IX. 1976
5. *Polytremis pellucida* Murray オオチャバネセセリ
1♂, 15. IX. 1973
6. *Pelopidas mathias oberthueri* Evans チャバネセセリ
1♂, 23. IX. 1976
7. *Parnara guttata* Bremer et Grey イチモンジセセリ
2♂, 15. IX. 1973, 2♂1♀, 23. IX. 1976

ミヤマセセリは山麓の雑木林にみられる。ホソバセセリは、山麓、山頂ともにかなり見られ、葉上に止まっていることが多い。キマダラセセリやオオチャバネセセリはあまり多くない。コチャバネセセリ、イチモンジセセリは最も普通の種で、特にイチモンジセセリは秋に個体数が極めて多い。

Papilionidae アゲハチョウ科

1. *Byasa alcinous alcinous* Klug ジャコウアゲハ
堀田(1959), 登日(1974), 1♂, 22. VII. 1976, 1♂1♀, 12. VIII. 1976
2. *Graphium sarpedon nipponum* Fruhstorfer アオスジアゲハ
堀田(1956), 登日(1974), 1♂, 9. VI. 1974, 2♂, 22. VII. 1976,
1♀, 12. VIII. 1976
3. *Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felder キアゲハ
登日(1974), 1♂, 22. VII. 1976, 2♂, 12. VIII. 1976
4. *Papilio xuthus* Linnaeus アゲハ
登日(1974), 1♂, 22. VII. 1976, 1♀, 12. VIII. 1976
5. *Papilio protenor demetrius* Gramer クロアゲハ
登日(1974), 1♂1♀, 22. VII. 1976, 1♂1♀, 12. VIII. 1976
6. *Papilio helenus nicconicolens* Butler モンキアゲハ
堀田(1956), 登日(1974), 1♂, 3. VI. 1973, 2♂, 3. VI. 1975,
1♂, 22. VII. 1976, 1♀, 12. VIII. 1976
7. *Papilio bianor dehaani* C. et R. Felder カラスアゲハ
登日(1974), 1♂, 22. V. 1976, 1♀, 22. VII. 1976, 1♂, 12. VIII. 1976

ジャコウアゲハは山麓から山頂まで全体に多く、アオスジアゲハの夏型は山頂付近に極めて多い。キアゲハは千光寺の境内でよく見られるが、今年の夏は特に多いようであった。モンキアゲハは春型、夏型ともに1950年頃に比べると個体数がずっと多くなっている。カラスアゲハはあまり多くない。アゲハ、クロアゲハは最普通種であるが、アゲハはその割に個体数は多くない。

Pieridae シロチョウ科

1. *Pieris rapae crucivora* Boisduval モンシロチョウ
石原他(1973), 1♀, 3.VI.1975, 1♂, 12.VIII.1976
2. *Pieris melete* Menetries スジグロシロチョウ
登日(1974), 石原他(1974), 1♂, 29.IV.1973, 1♂, 24.VI.1973,
1♀, 3.VI.1975, 1♂, 22.VII.1976

3. *Anthocharis scolymus* Butler ツマキチョウ
登日(1974), 1♂, 29.IV.1974

4. *Eurema hecabe mandarina* de I'Orza キチョウ
石原他(1973), 登日(1974), 1♂1♀, 12.VIII.1976

5. *Colias erate poliographus* Motschulsky モンキチョウ
1♀, 29.IV.1973

モンシロチョウよりスジグロシロチョウの方が多く、ツマキチョウやモンキチョウは山頂より山麓の方でよく見かける。キチョウは全体に多い。

Lycaenidae シジミチョウ科

1. *Narathura japonica* Murray ムラサキシジミ
登日(1974)

2. *Japonica saepestriata* Hewitson ウラナミアカシジミ
1♂, 3.VI.1975

3. *Antigius attilia* Bremer ミズイロオナガシジミ
1♂, 3.VI.1975

4. *Neozephyrus taxila japonicus* Murray ミドリシジミ
1♂1♀, 9.VI.1974

5. *Lycaena phlaeas daimio* Seitz ベニシジミ
石原他(1973), 登日(1974), 1♂, 24.VI.1973, 1♂, 12.VIII.1976

6. *Lampides boeticus* Linnaeus ウラナミシジミ
登日(1974), 2♂, 15.IX.1973

7. *Everes argiades hellotia* Menetries ツバメシジミ
石原他(1973), 1♂, 15.IX.1973

8. *Zizeeria maha argia* Menetries ヤマトシジミ
登日(1974), 2♂, 12.VIII.1976, 1♂, 23.IX.1976

9. *Celastrina argiolus ladonides* de I'Orza ルリシジミ
登日(1974), 2♀, 29.IV.1973, 1♂, 15.IX.1973

ムラサキシジミは1950年代にはかなり多かったが、近年その姿を見かけない。ウラナミ

アカ、ミズイロオナガは山腹のクヌギ林で見られるがあまり多くない。ミドリシジミは山腹のハンノキ林で得ている。ウラナシジミは秋頃特に多く、ハギなどの花によく集まっている。ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミは殻普通種で、個体数も多い。

Curetidae ウラギンシジミ科

1. *Curetis acuta paracuta* de Niceville ウラギンシジミ
石原他(1973), 登日(1974), 1♂, 30. IX. 1974, 2♂1♀, 23. IX. 1976
第1化の成虫は少ないが、第2化のいわゆる秋型は個体数が多く、クズの花などによく集まる。

Libytheidae テングチョウ科

1. *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer テングチョウ
登日(1974), 1♂, 3. VIII. 1976
発生期の5月下旬から6月にかけてかなり多い。夏眠しない個体があるらしく、7月や8月にも時々見かけることがある。

Danaidae マダラチョウ科

1. *Parantica sita nipponica* Moore アサギマダラ
堀田(1959), 石原他(1973), 登日(1974), 1♀, 22. VII. 1976, 2♂3♀,
12. VIII. 1967
5月にあらわれる第1化は少ないが、夏になると山頂付近に多く、朝と夕方によく活動する。先山にはカラスウリが多く、その花で吸蜜するのをよく見かける。秋になると山頂よりも山麓に多く、集団をつくることがある。

Nymphalidae タテハチョウ科

1. *Argynnis anadyomene midas* Butler クモガタヒョウタン
1♂, 30. IX. 1974
2. *Argynnis paphia geisha* Hemming ミドリヒョウモン
登日(1974), 1♂, 12. VIII. 1976
3. *Damora sagana liane* Fruhstorfer メスグロヒョウモン
登日(1974), 1♀, 23. IX. 1976
4. *Argyreus hyperbius* Linnaeus ツマグロヒョウモン
登日(1974), 2♂, 22. VII. 1976
5. *Neptis sappho intermedia* Pryer コミスジ
登日(1974), 1♂, 29. IV. 1973, 1♂1♀, 12. VIII. 1976
6. *Vanessa cardui* Linnaeus ヒメアカタテハ
1♂, 3. VIII. 1974
7. *Vanessa indica* Herbst アカタテハ

- 登日(1974), 1♂, 21. VII. 1975, 1♀, 23. IX. 1976
8. *Kaniska canace no-japonicum* von Siebold ルリタテハ
登日(1974), 1♂, 12. VIII. 1976
9. *Nymphalis xanthomelas japonica* Stichel ヒオドシチョウ
登日(1974), 1♀, 9. VI. 1974
10. *Polygonia c-aureum* Linnaeus キタテハ
石原他(1973), 1♂, 3. VIII. 1974
11. *Hestina japonica* C. et R. Felder ゴマダラチョウ
堀田(1959), 登日(1974), 1♀, 3. VI. 1973, 2♂, 12. VIII. 1976

ミドリヒョウモンは夏眠するはずであるが、山頂付近では盛夏にもかなりの個体が活動している。ツマグロヒョウモンは千光寺の境内に多く、♂は占有行動をとるのが見られる。ヒオドシチョウは、クヌギなどの樹液に集まるがあまり多くない。クモガタヒョウモン、ヒメアカタテハ、アカタテハ、ルリタテハもあまり多くない。ゴマダラチョウは山頂付近のエノキのまわりに見られ、樹液にも集まる。コミスジは最普通種で個体数も多い。

Satyridae ジャノメチョウ科

1. *Ypthima argus* Butler ヒメウラナミジャノメ
登日(1974), 1♂, 29. IV. 1973, 2♂, 12. VIII. 1976
2. *Minois dryas bipunctatus* Motschulsky ジャノメチョウ
登日(1974)
3. *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer ヒメジャノメ
石原他(1973), 1♂, 15. IX. 1973, 1♂1♀, 12. VIII. 1976, 1♂1♀, 23. IX. 1976
4. *Mycalesis francisca perdiccas* Hewitson コジャノメ
登日(1974), 1♂, 12. VIII. 1976
5. *Lethe sicelis* Hewitson ヒカゲチョウ
石原他(1973), 登日(1974), 1♂, 23. IX. 1976
6. *Neope goschkevitschii* Menetries サトキマダラヒカゲ
登日(1974), 1♂, 3. VI. 1973

ジャノメチョウは、中川原の庚申堂からの登山道沿いに多く、ヒカゲチョウやサトキマダラヒカゲは、クヌギなどの樹液によく集まる。ヒメジャノメ、コジャノメは山麓から山頂にかけて見られる。ヒメウラナミジャノメは、最普通種で個体数も多い。

Sphingidae スズメガ科

1. *Ampelophaga rubiginosa rubiginosa* Bremer et Grey クルマスズメ
石原他(1974), 1ex., 12. VIII. 1976

2. *Macroglossum pyrrhosticta* Butler ホシホウジャク
石原他(1973)
3. *Cephonodes hylas* Linne オオスカシバ
1 ex., 23. VII.1951
4. *Theretra japonica* de l'Orza コスズメ
1 ex., 23. VII.1951
5. *Theretra nessus* Drury キイロスズメ
1 ex., 12. VIII.1976
6. *Rhagastis mongoliana mongoliana* Butler ヒロウドスズメ
1 ex., 12. VIII.1976

Saturniidae ヤママユガ科

1. *Antheraea yamamai* Guerin-Meneville ヤママユガ
石原他(1973), 1 ex., 12. VIII.1967

Arctiidae ヒリリガ科

1. *Spilarctia seriatopunctata* Motschulsky スジモンヒトリ
1 ex., 12. VIII.1976

Noctuidae ヤガ科

1. *Mamestra illopa* Butler シロシタヨトウ
石原他(1973)
2. *Sphragifera biplaga hexagona* Bryx コマルモンシロガ
1 ex., 12. VIII.1976
3. *Catocala patala* Felder キシタバ
1 ex., 23. VII.1951, 1 ex., 12. VIII.1976
4. *Catocala kuangtungensis* Mell クロシオキシタバ
2 ex., 12. VIII.1967
5. *Metopta rectifasciata* Menetries シロスジトモエ
1 ex., 12. VIII.1967
6. *Speiredonia retorta* Clerck オスグロトモエ
1♂1♀, 12. VIII.1967
7. *Oraesia excavata* Butler アカエグリバ
1 ex., 12. VIII.1952
8. *Oraesia lata* Butler オオエグリバ
1 ex., 12. VIII.1976
9. *Erebus orepuscularis* Linne オオトモエ

- lex., 12. VIII.1976
10. *Adris tyrannus amurensis* Staudinger アケビコノハ
lex., 12. VIII.1976
11. *Sypna lucilla* Butler オオシラフチバ
lex., 12. VIII.1976
12. *Badiza simplex* Butler フジロアツバ
lex., 12. VIII.1976

Notodontidae シャチホコガ科

1. *Fentonia ocypete* Bremer ホソバシャチホコ
lex., 12. VIII.1976
2. *Pterostoma sinica* Moore オオエグリシャチホコ
lex., 12. VIII.1976
3. *Phalera flavescens* Bremer et Grey モンクロシャチホコ
lex., 12. VIII.1976

Lymantriidae ドクガ科

1. *Dasychira pseudabietis* Butler リンゴドクガ
lex., 12. VIII.1952
2. *Lymantria dispar japonica* Motschulsky マイマイガ
lex., 23. VII.1951
3. *Lymantria mathura aurora* Butler カシワマイマイ
石原他(1974)
4. *Pida nipponis* Butler クロモンドクガ
lex., 12. VIII.1952

Lasiocampidae カレハガ科

1. *Odonestis prum rufescens* Kardakoff リンゴカレハ
lex., 17. VI.1951
2. *Philudoria albomaculata* Bremer タケカレハ
lex., 17. VI.1951

Geometridae シャクガ科

1. *Tanaorhinus reciprocata confuciarum* Walker カギバアオシャク
lex., 12. VIII.1976
2. *Comibaena procumbaria* Pryer ヨツモンマエジロアオシャク
lex., 12. VIII.1976
3. *Semiothisa defixaria* Walker フタテンオエダシャク

- 1 ex., 12. VIII. 1976
4. *Krananda semihyalinata* Moore スカシエダシヤク
1 ex., 12. VIII. 1976
5. *Ophthalmodes albosignaria* Bremer et Grey ヨツメエダシヤク
1 ex., 3. VIII. 1952
6. *Nothomiza formosa* Butler マエキトビエダシヤク
1 ex., 12. VIII. 1976

Zygaenidae マダラガ科

1. *Pryeria sinica* Moore ミノウスバ
石原他(1973)
2. *Pidorus glaucopsis atratus* Butler ホタルガ
1 ex., 16. VI. 1951

蛾類は殆ど採集していないので、本目録からは除外するつもりであったが、これまでのところ愛媛大学のグループの記録があるだけなので、今後の参考までに一応報告しておく。淡路島南部にはクロシオキシタバが多いが、先山の山頂付近でも8月頃個体数が多い。

COLEOPTERA 甲虫目

Rhysodidae セスジムシ科

1. *Clinidium veneficum* Lewis チャイロヒラタセスジムシ
石原他(1974)

Cicindelidae ハンミョウ科

1. *Cicindela japon* Motschulsky ニワハンミョウ
1 ex., 22. V. 1976
2. *Cicindela japonica* Thunberg ハンミョウ
堀田(1959)

Carabidae オサムシ科

1. *Apotomopterus dehaanii* Chaudoir オオオサムシ
堀田(1959), 石原他(1973), 1 ex., 11. VIII. 1965, 1 ex., 8. VIII. 1970,
3 exs., 22. VII. 1976
2. *Apotomopterus yaconinus* Bates ヤコンオサムシ
石原他(1973), 1 ex., 16. VIII. 1950, 2 exs., 11. VIII. 1965, 1 ex.,
3. VI. 1973
3. *Apotomopterus japonicus chugokuensis* Nokane アキオサムシ
石原他(1973), 1 ex., 1. IX. 1947, 1 ex., 16. VIII. 1950, 1 ex., 12. VIII.

1952. 1 ex., 11. V. 1965. 1 ex., 3. VIII. 1947, 2 exs., 22. V. 1976
4. *Damaster blaptoides* Kollar マイマイカブリ
石原他(1973). 1 ex., 24. VI. 1973
- オオオサムシは濃青か青紫色の原型で極めて多い。ヤコンオサ、アキオサも個体数が多く、アキオサは明るい銅色のもの、暗い銅色のもの、また金緑色を帯びるものなど変化に富んでいる。

Harpalidae ゴミムシ科

1. *Synuchus nitidus* Motschulsky オオクロツヤヒラタゴミムシ
石原他(1973)
2. *Synuchus cycloderus* Bates クロツヤヒラタゴミムシ
石原他(1973)
3. *Synuchus dulcigradus* Bates ヒメツヤヒラタゴミムシ
石原他(1973)
4. *Calathus halensis* Schaller セアカヒラタゴミムシ
石原他(1973)
5. *Colpodes buchani* Hope オオアオモリヒラタゴミムシ
2 exs., 12. VIII. 1976
6. *Anisodactylus punctatipennis* Morawitz ホシボシゴミムシ
堀田(1959)
7. *Macrochlaenites costiger* Chaudoir スジアオゴミムシ
堀田(1959), 石原他(1973), 1 ex., 22. VII. 1976
8. *Chlaenius naeviger* Morawitz アトボシアオゴミムシ
石原他(1973)
9. *Lebia calycophora* Schmidt-Goebel ヒメアトキリゴミムシ
2 exs., 3. VII. 1976

Brachinidae ホソクビゴミムシ科

1. *Brachinus scotomedes* Bates オオホソクビゴミムシ
堀田(1959), 1 ex., 8. VIII. 1970

Gyrinidae ミズスマシ科

1. *Dineutus orientalis* Modeer オオミズスマシ
石原他(1973)
2. *Gyrinus japonicus* Sharp ミズスマシ
石原他(1973), 1 ex., 21. VII. 1975

Histeridae エンマムシ科

1. *Cylister lineicolle* Marseul ナガエンマムシ
石原他(1973)

Silphidae シデムシ科

1. *Neerodes asiaticus* Portevin オオモモトシデムシ
1 ex., 12. VII. 1976
2. *Calosilpha brunnicollis* Kraatz ベッコウヒラタシデムシ
1 ex., 22. VII. 1976
3. *Eusilpha japonica* Motschulsky オオヒラタシデムシ
堀田(1959)

オオモモトシデムシは灯火に飛来したものである。オオヒラタシデムシは少ないようであるが、ベッコウヒラタシデムシは多い。

Staphylinidae ハネカクシ科

1. *Algon grandicollis* Sharp ムナビロハネカクシ
石原(1974)

Lucandae クワガタムシ科

1. *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky ミヤマクワガタ
堀田(1973), 1♀, 12. VII. 1976
2. *Prosopocoilus inclinatus* Motschulsky ノコギリクワガタ
石原他(1973), 堀田(1973), 1♂, 9. VI. 1974
3. *Dorcus titanus* Boisduval ヒラタクワガタ
1♂, 9. VI. 1974
4. *Macrodorcas rectus* Motschulsky コクワガタ
石原他(1973), 堀田(1973), 1♀, 3. VI. 1975
5. *Macrodorcas binervis* Motschulsky スジクワガタ
堀田(1959, 1973), 1♂, 3. VII. 1976
6. *Aegus laevicollis* Saunders ネプトクワガタ
堀田(1959, 1973)

ミヤマクワガタは、山麓山頂ともに多く、昼間クヌギなどの樹上にいるが、夜間灯火にも飛来する。今年の夏山頂のタブノキにかなりの個体が集まっているのが見られた。ノコギリクワガタも多く、昼間でも樹液に集まるが、夜間によく活動する。コクワガタも普通で、昼間も樹液に集まるが、夜間によく活動し灯火にも飛来する。スジクワガタは山頂付近にはかなり見られるが、山麓では少ないようである。ヒラタクワガタは全体に少なく、今年は頂上付近では見かけなかった。ネプトクワガタは、これまでに山頂で2頭採集しただけである。

Geotrupidae センチコガネ科

1. *Geotrupes laevistriatus* Motschulsky センチコガネ
堀田(1959)

Scarabaeidae コガネムシ科

1. *Maladera orientalis* Motschulsky ヒメビロウドコガネ
2 exs., 3. VI. 1975
2. *Maladera secreta* Brenske マルガタビロウドコガネ
石原他(1973), 高橋(1975)
3. *Lachnsteria kiotonensis* Brenske クロコガネ
1 ex., 3. VII. 1976
4. *Heptophylla picea* Motschulsky ナガチャコガネ
石原他(1974), 1 ex., 3. VII. 1976
5. *Melolontha frater* Arrow オオコフキコガネ
石原他(1974)
6. *Melolontha japonica* Burmeister コフキコガネ
2 exs., 22. VII. 1975
7. *Allomyrina dichotoma* Linne カブトムシ
1♂ 1♀, 21. VII. 1975
8. *Mimela flavilabris* Waterhouse ヒメスジコガネ
1 ex., 21. VII. 1975
9. *Anomala costata* Hope オオスジコガネ
石原他(1974), 1 ex., 21. VII. 1975
10. *Anomala testaceipes* Motschulsky スジコガネ
1 ex., 21. VII. 1975
11. *Anomala albopilosa* Hope アオドウガネ
1 ex., 12. VIII. 1976
12. *Anomala cuprea* Hope ドウガネブイブイ
1 ex., 12. VIII. 1976
13. *Blitopertha orientalis* Waterhouse セマダラコガネ
堀田(1959, 1974) 1 ex., 22. VII. 1976, 1 ex., 12. VIII. 1976
14. *Rhomborrhina japonica* Hope カナブン
1 ex., 21. VII. 1975
15. *Rhomborrhina unicolor* Motschulsky アオカナブシ
石原他(1974)

16. *Protaetia brevitarsis* Lewis シラホシハナムグリ
1 ex., 21. VII. 1975
17. *Protaetia orientalis* Gory et Percheron シロテンハナムグリ
1 ex., 21. VII. 1975
18. *Cetonia pilifera* Motschulsky ハナムグリ
堀田(1959)
19. *Cetonia roelofsi* Harold アオハナムグリ
石原他(1974), 1 ex., 21. VII. 1975
20. *Oxycetonia jucunda* Falderman コアオハナムグリ
石原他(1973), 堀田(1974), 1 ex., 21. VII. 1975
カブトムシは山麓のクスギ林にはかなりいるが、山頂付近では少ない。ヒマダラコガネは、
全体黒色のものから上翅の黒紋が消失したのまで変異に富み、個体数も多い。ドウガネブイ
ブイ、スジコガネ、コフキコガネ、コアオハナムグリなども多い。

Buprestidae タマムシ科

1. *Chrysochroa fulgidissima* Schonherr タマムシ
2 exs., 21. VII. 1975
2. *Chalcophora japonica* Gory ウバタマムシ
石原他(1974), 1 ex., 8. VIII. 1970
3. *Chrysobothris succedanea* E. Saunders ムツボシタマムシ
石原他(1974)
4. *Anthaxia proteus* E. Saunders ヒメヒラタタマムシ
2 exs., 3. VII. 1976
タマムシは山頂付近のエノキのまわりによく見られるが、年によって個体数にかなり差があ
る。

Elateridae コメツキムシ科

1. *Agrypnus binodulus* Motschulsky サビキコリ
1 ex., 12. VIII. 1976
2. *Pectocera fortunei* Candeze ヒゲコメツキ
1♀, 3. VII. 1976
3. *Alaus berus* Candeze ウバタマコメツキ
堀田(1959)
4. *Ampedus hypogastricus* Candeze アカハラクロコメツキ
石原他(1973)
5. *Heterathous desertor* Candeze ヒメクロツヤハダコメツキ

1 ex., 22 VII.1976

6. *Elater sieboldi* Candeze オオナガコメツキ

1 ex., 12 VIII.1976

Eucnemidae コメツキダマシ科

1. *Fornax nipponicus* Fleutiaux コチャイロコメツキダマシ
石原他(1974)

Nitidulidae ケシキシムシ科

1. *Haptoncus ocularis* Fairmaire モンチビヒラタケシキシムシ
石原他(1973)
2. *Epuraea paulula* Reitter マメヒラタケシキシムシ
石原他(1973)
3. *Librodor japonicus* Motschulsky ヨツボシケシキシムシ
石原他(1973), 1 ex., 9 VI.1974

ヨツボシケシキシムシは、クヌギなどの樹液に集まり、個体数も多い。

Helotidae オオキシムシ科

1. *Helota gemmata* Gorham ヨツボシオオキシムシ
石原他(1974), 1 ex., 9 VI.1974
クヌギなどの樹液に集まり、個体数は多い。

Phalacridae ヒメハナムシ科

1. *Stilbus polygramma* Flach エムモンチビヒメハナムシ
石原(1973)

Coccinellidae テントウムシ科

1. *Pseudoscymnus hareja* Weise ハレヤヒメテントウ
石原他(1973)
2. *Scymnus Pullus kawamurai* Ohta カワムラヒメテントウ
石原他(1973)
3. *Coccinella septempunctata brucki* Mulsant ナナホシテントウ
石原他(1973), 1 ex., 12 VIII.1976
4. *Prophlea japonica* Thunberg ヒメカメノコテントウ
石原他(1973)
5. *Illeis koebeleri* Timberlake キイロテントウ
石原他(1973)
6. *Nephus kompirasanus* H.Kamiya ムモンヒメテントウ
石原他(1974)

7. *Rodoria limbata* Motschulsky ベニヘリテントウ

石原他(1974)

ナナホシテントウは気温 25℃ 以上では活動しないといわれ、平地では夏の間その姿を見かけないが、本年8月12日、西茶屋横の葉上で活動している本種を2頭見かけた。

Endomychidae テントウダマシ科

1. *Endomychus gorhami* Lewis ルリテントウダマシ

石原他(1973)

Ciidae ツツキノコムシ科

1. *Cis seriatopilus* Motschulsky モッチュルスキツツキノコムシ

石原他(1973)

Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

1. *Parabolitophagus felix* Lewis カブトゴミムシダマシ

石原他(1973)

2. *Platydema subfascia* Walker ベニモンキノコゴミムシダマシ

石原他(1973)

3. *Uloma marseuli* Nakane エグリゴミムシダマシ

石原他(1973)

4. *Tetraphyllus lunuliger* Marseul ニジゴミムシダマシ

1ex., 22. VII. 1976

5. *Stenophanes rubripennis* Marseul ホソクビキマワリ

堀田(1959), 1ex., 22. VII. 1976

6. *Plesiophthalmus nigrocyanus* Motschulsky キマワリ

堀田(1959), 1ex., 22. VII. 1976

キマワリは山麓から山頂にかけて個体数が多い。

Alleculidae クチキムシ科

1. *Allecula fuliginosa* Maklin オオクチキムシ

石原他(1973), 1ex., 21. VII. 1975

Mordellidae ハナノミ科

1. *Glipostenoda rosseola* Marseul チャイロヒメハナノミ

石原(1974)

Cerambycidae カミキリムシ科

1. *Megopis sinica* White ウスバカミキリ

堀田(1971), 1ex., 13. VIII. 1976

2. *Prionus insularis* Motschulsky ノコギリカミキリ

- 堀田 (1971), 1 ex., 22. VII. 1976
3. *Distenia gracilis* Blessig ホソカミキリ
堀田 (1958, 1971), 1 ex., 21. VII. 1975, 1 ex., 12. VII. 1976
 4. *Anoplodera excavata* Bates ミヤマクロハナカミキリ
1 ex., 3. VI. 1975
 5. *Leptura arcuata* Panzer ヤツボシハナカミキリ
1 ex., 3. VI. 1975
 6. *Spondylis buprestoides* Linne クロカミキリ
堀田 (1958, 1971), 1 ex., 12. VII. 1976
 7. *Xystrocera globosa* Olivier アオスジカミキリ
1 ex., 22. VII. 1976
 8. *Mallambyx raddei* Blessig ミヤマカミキリ
堀田 (1971)
 9. *Pseudaolesthes chrysothrix* Bates キマダラヤマカミキリ
堀田 (1958, 1971), 1 ex., 21. VII. 1975
 10. *Pyrestes haematicus* Pascoe クスベニカミキリ
石原他 (1974)
 11. *Leontium viride* Thomson ミドリカミキリ
2 exs., 3. VI. 1973
 12. *Chlorophorus japonicus* Chevrolat エグリトラカミキリ
石原他 (1974)
 13. *Purpuricenus temmincki* Guerin-Meneville ベニカミキリ
1 ex., 8. VII. 1976
 14. *Dere thoracica* White ホタルカミキリ
堀田 (1974), 5 exs., 3. VI. 1975
 15. *Mesosa longipennis* Bates ナガゴマフカミキリ
堀田 (1971), 2 exs., 22. VII. 1976
 16. *Mesoca hirsuta* Bates カタシロゴマフカミキリ
堀田 (1958, 1971), 石原他 (1974)
 17. *Pterolophia caudata* Bates トガリシロオビサビカミキリ
堀田 (1958, 1971)
 18. *Pterolophia zonata* Bates アトジロサビカミキリ
堀田 (1975)
 19. *Parechthistatus gibber* Bates ヒメコブヤハズカミキリ

水沼(1970)

20. *Anoplophora malasiaca* Thomson ゴマダラカミキリ
1 ex., 22. VII. 1975
21. *Eupromus ruber* Dalman ホシベニカミキリ
堀田(1971), 石原他(1974), 1 ex., 5. VII. 1976, 2 exs., 8. VII. 1976
22. *Monochamus subfasciatus* Bates ヒメヒゲナガカミキリ
堀田(1958, 1971)
23. *Acalolepta luxuriosa* Bates センノカミキリ
堀田(1958, 1971), 1 exs., 22. VII. 1976
24. *Acalolepta fraudatorix* Bates ビロウドカミキリ
1 ex., 22. VII. 1976
25. *Acalolepta sejuncta* Bates ニセビロウドカミキリ
堀田(1971), 1 ex., 22. VII. 1976
26. *Batocera lineolata* Chevrolat シロスジカミキリ
堀田(1958, 1971)
27. *Pareutetrappa simulans* Bates ニセシラホシカミキリ
堀田(1974)
28. *Eutetrappa ocelota* Bates ヤツメカミキリ
堀田(1958, 1971)
29. *Glenea relictata* Pascoe シラホシカミキリ
堀田(1958, 1971), 石原他(1974), 1 ex., 21. VII. 1975
30. *Nupserha marginella* Bates ヘリグロリングカミキリ
1 ex., 21. VII. 1975

ミドリカミキリ、ホタルカミキリは6月頃山頂のタキギに多い。シラホシカミキリは葉上に見られ、山頂付近にかなりいる。ウスバカミキリ、ノコギリカミキリ、ホソカミキリ、クロカミキリ、アオスジカミキリ、キマダラヤマカミキリ、ビロウドカミキリ、ニセビロウドカミキリ、ヤツメカミキリは、灯火によく飛来する。ナガゴマフカミキリ、カタシログマフカミキリ、ヒメヒゲナガカミキリ、ホソカミキリ、キマダラヤマカミキリ、センノカミキリなどは夏頃山頂のタキギによく集まり、ナガゴマフカミキリは特に多い。室戸岬では5月中旬にホシベニカミキリが見られるということなので、淡路では6月上旬頃出現するものと考え、ここ数年探していたが、今年の7月上旬になってやっと山頂のタブノキを加害中の本種を3頭採集することができた。今年は他の昆虫もいくらか発生がおくっていたが、それにしても7月に活動するというのは、他の地域に比べて、かなり遅いように思う。

Chrysomeridae ハムシ科

1. *Lilioceris subpolita* Motschulsky アカツヤクビナガハムシ
堀田(1959), 大野(1969), 1 ex., 22. VII. 1976
2. *Lilioceris rugata* Baly ヤマイモクビナガハムシ
石原他(1974)
3. *Smaragdina garretai* Achard キムネナガツツハムシ
大野(1969)
4. *Smaragdina nipponensis* Chujo キイロナガツツハムシ
大野(1969)
5. *Cryptocephalus approximatus* Baly バラルリツツハムシ
大野(1969)
6. *Cryptocephalus signaticeps* Baly クロボシツツハムシ
大野(1969)
7. *Adiscus lewisii* Baly タマツツハムシ
石原他(1974)
8. *Chlamisus spilotus* Baly クヌギコブハムシ
大野(1969)
9. *Oomorphoides cupreatus* Baly ツヤハムシ
大野(1969), 石原他(1974)
10. *Acrothinium gaschkevitschii* Motschulsky アカガネサルハムシ
大野(1969), 石原他(1974)
11. *Basilepta fulvipes* Motschulsky アオバネサルハムシ
堀田(1959), 大野(1969)
12. *Colposcelis signata* Motschulsky ヒメキバネサルハムシ
大野(1969)
13. *Demotina fasciculata* Baly マダラカサハラハムシ
大野(1969)
14. *Hyperaxis fasciata* Baly クロオビカサハラハムシ
大野(1969), 石原他(1973)
15. *Scelodonta lewisii* Baly ドウガネサルハムシ
大野(1969)
16. *Nodina chalcosoma* Baly チビサルハムシ
石原他(1974)
17. *Gonioctena rubripennis* Baly フジハムシ

- 大野(1969)
18. *Aulacophora femoralis* Motschulsky ウリハムシ
大野(1969), 石原他(1973)
 19. *Aulacophora nigripennis nigripennis* Motschulsky クロウリハムシ
大野(1969), 石原他(1973), lex., 12. VIII. 1976
 20. *Calomicrus cyaneus* Jacoby ルリヒメハムシ
大野(1969)
 21. *Galerucida bifasciata* Motschulsky イタドリハムシ
大野(1969), 石原他(1974)
 22. *Hesperomorpha hirsuta* Baly ケブカヒゲナガハムシ
大野(1969)
 23. *Paraluperodes nigrobilineatus* Motschulsky フタスジヒメハムシ
大野(1969)
 24. *Paridea angulicollis* Motschulsky アトボシハムシ
堀田(1956), 大野(1969)
 25. *Paridea quadriplagiata* Baly ヨツボシハムシ
石原他(1973)
 26. *Pyrrhalta humeralis* Chen サングジュハムシ
大野(1969)
 27. *Pyrrhalta semifulva* Jacoby サクラケブカハムシ
大野(1969)
 28. *Exosoma flaviventre* Motschulsky キバラヒメハムシ
石原他(1974)
 29. *Morphosphaera japonica* Hornstedt イチモンジハムシ
lex., 22. V. 1976
 30. *Altica caerulescens* Baly ヒメカミナリトビハムシ
石原他(1974)
 31. *Aphthona strigosa* Baly サメハダツブノミハムシ
大野(1969)
 32. *Aphthonaltica angustata* Baly ニセカミナリハムシ
大野(1969)
 33. *Aphthonomorpha collaris* Baly フタイロセマルトビハムシ
大野(1969)
 34. *Hemipyxis flavipennis* Baly キバネマルノミハムシ

- 大野 (1969)
35. *Longitarsus bimaoulatus* Baly ネズミモチアシナガトビハムシ
大野 (1969)
36. *Longitarsus lewisii* Baly オオバコアシナガトビハムシ
大野 (1969)
37. *Longitarsus kimotoi* Ohno ルリアシナガトビハムシ
石原他 (1973)
38. *Luperomorpha tenebrosa* Jacoby キアシノミハムシ
大野 (1973)
39. *Minota nigropicea* Baly セマルトビハムシ
大野 (1969)
40. *Argopus punctipennis* Motschulsky アカイロマルトビハムシ
石原他 (1973)
41. *Phyllotreta striolata* Fabricius キスジノミハムシ
大野 (1969)
42. *Pseudoliprus hirtus flaviceps* Ohno クビボソトビハムシ
大野 (1969)
43. *Sangariola punctatostriata* Motschulsky カタクリハムシ
大野 (1969)
44. *Sphaeroderma akebiae* Ohno アケビタマノミハムシ
大野 (1969)
45. *Cassida japona* Baly イノコヅチカメノコハムシ
46. *Thlaspida biramosa japonica* Spaeth イチモンジカメノコハムシ
大野 (1969)

淡路島のハムシ相については、大野氏 (1970) が詳しく述べておられるが、固有種はもちろろん、分布の南限や北限となる種類もなく、ファウナとしては極めて平凡な様相を呈しているということである。ただ先山産の中でやや特異な存在となっているのは、クビボソトビハムシで、本種は、兵庫県各市川～円山川以東、四国においては吉野川～物部川以東に分布するもので、淡路島が西限産地の1つといえるそうである。筆者は、ハムシ類は殆ど採集していないが、アカツヤクビナガハムシは山頂付近にかなり見られる。

Bruchidae マメゾウムシ科

1. *Bruchus pisorum* Linne エンドウゾウムシ
堀田 (1959)

Attelabidae オトシブミ科

1. *Auletobius puberulus* Faust ヒメクロケシツブチヨッキリ
石原他(1973)
2. *Mecorhis ursulus* Roelofs ハイイロチヨッキリ
1 ex., 22. VII. 1976
3. *Euops lespedezae* Sharp ハギルリオトシブミ
石原他(1974)

Curculionidae ゾウムシ科

1. *Eugnathus distinctus* Roelofs コフキノウムシ
石原他(1974)
2. *Carcilia Strigicollis* Roelofs ツツゾウムシ
1 ex., 22. VII. 1976
3. *Mesalcidodes trifidus* Pascoe オジロアシナガゾウムシ
石原他(1973)
4. *Curculio camelliae* Roelofs ツバキシギゾウムシ
1 ex., 21. VII. 1975

Rhynchophoridae オサゾウムシ科

1. *Dryophthoroides sulcatus* Roelofs ニセキクイサビゾウムシ
石原他(1973)
2. *Hyposipalus gigas* Fabricius オオゾウムシ
1 ex., 12. VIII. 1976
3. *Aplotes roelofsi* Cheverolat トホシオサゾウムシ
堀田(1959)

文 献

1. 堀田 久(1956) 淡路島の蝶類, 兵庫生物, 3(3): 114-115, 141
2. ———(1958) 淡路島のカミキリムシ類, 兵庫生物, 3(4): 255-257
3. ———(1959a) 淡路島産甲虫類目録(II), 兵庫生物, 3(5): 376-378
4. ———(1959b) 淡路島の蝶(I), MDK News, (52): 7-9
5. ———(1959c) ———(II), MDK News, (53): 8-9
6. 大野正男(1969) 淡路島のハムシ相(I), 兵庫生物, 6(1): 11-14
7. ———(1970) ———(II), 兵庫生物, 6(2): 150-151

- 8 水沼哲郎 (1970) 淡路島でヒメコブヤハズカミキリを採集, 甲虫ニュース, (10) 3-4
- 9 堀田 久 (1971) 淡路島のカミキリムシ, PARNASSIUS, (8): 1-5
- 10 堀田 久 (1973) 淡路島のクワガタムシ, PARNASSIUS, (10): 5-6
- 11 石原保他 (1973, 1974) 本四架橋ルート島々の昆虫相, 本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書
- 12 登日邦明 (1974a) 淡路島の蝶相 (I), 佳香蝶, 26(98): 9-15
- 13 登日邦明 (1976b) 淡路島の蝶相 (II), 佳香蝶, 26(99): 25-32
- 14 堀田 久 (1974a) 淡路島産コガネムシ類, PARNASSIUS, (13): 1-3
- 15 堀田 久 (1974b) 淡路島のカミキリムシ追加 (II), PARNASSIUS, (13): 4
- 16 高橋寿郎 (1975) 淡路島産のコガネムシ類について, PARNASSIUS, (14): 1-3
- 17 堀田 久 (1975a) 淡路島の蝶相, 兵庫の自然, 5(1): 14-16
- 18 堀田 久 (1975b) 淡路島のゾウムシ類について, PARNASSIUS, (15): 1-4
- 19 堀田 久 (1975c) 淡路島のカミキリムシ追加 (III), PARNASSIUS, (15): 4

三熊山でスミナガシを目撃

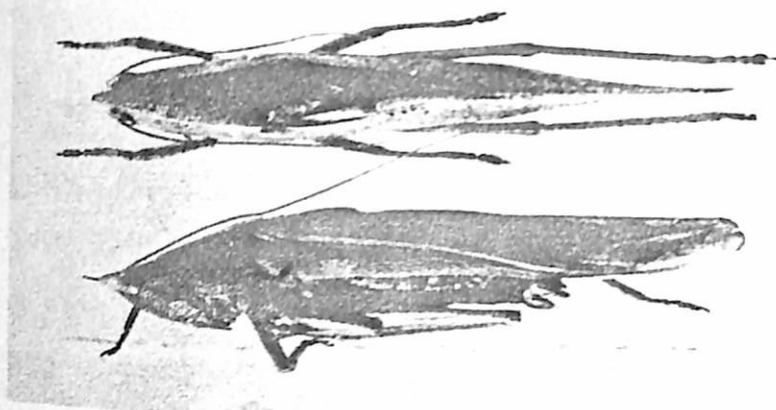
淡路島では、スミナガシ *Dichorragia nesimachus nesiotus* Fruhstorfer は南淡町土生より1♂が得られているのみであるが、本年(1976)9月4日午後2時すぎ、柳高校生物部のメンバー3名と共に、洲本市の背後の三熊山(標高130m)に採集に出掛けた際、三熊館横の登山口より右側へ15mあまり登った地点で、6~7頭のスミナガシがカラスザンショウの大木の樹上を飛翔するのを目撃した。

三熊山では、すでに1955年8月下旬に田中蕃氏が本種を目撃しており(MDK News 40: 82-84)、また筆者が本年6月に採集に訪れた際にも右前翅を捨てているので、この山に生息することは充分考えられる。アワブキで幼虫が発見されることを期待したい。

(登日邦明)

淡路島産バッタ類追加(II)

山崎俊道



シブイロカヤキリモドキ *Xesthophrys horvathi* Boliver

カネタタキ科 *Mogoplistidae*

1. アシジマカネタタキ *Ornebius annulipedus* Shiraki
西淡町阿那賀春日神社, 1♂, 19. X. 1975
洲本市三熊山, 1♂, 7. IX. 1976

マダラスズ科 *Nemobiidae*

2. ヤチスズ *Pteronemobius ohmachii* Shiraki
洲本市加茂, 1♂, 9. XI. 1975
五色町下塚, 1♂1♀, 8. VII. 1975
三原町倭文, 3♂, 20. XI. 1975
各地に普通。
3. ヒメスズ *Nemobius nigrescens* Shiraki
洲本市三熊山, 3♂2♀, 3. IX. 1974
諭鶴羽山, 1♂1♀, 28. X. 1975
先山, 1♂1♀, 23. IX. 1976
上記地区には多産する。

カマドウマ科 Stenopelmatidae

4. マダラカマドウマ *Diestrammena japonica* Blatchley
洲本市三熊山, 1♂, 7. IX. 1976
先山, 2♀, 23. IX. 1976
上記地区には普通。
5. コノシタウマ *Tachycines elegantissima* Griffini
常隆寺山, 1♂, 28. Ⅷ. 1975
先山, 1♂, 23. IX. 1976
普通種で各地に産する。

キリギリス科 Tettigoniidae

6. シブイロカヤキリモドキ *Xestophrys horvathi* Boliver
五色町下塚, 5♂, 23. V. 1975
1♂, 10. IV. 1976
洲本市上薮, 1♂, 14. VI. 1975
各地に普通。

淡路島産のバッタ類は、これで65種を数えることになった。

淡路島産蜂類覚え書(Ⅱ)

登 日 邦 明

筆者は先に淡路島産の蜂類20種を記録したが、⁴⁾その後採集し同定できたものなどを記録しておく。今回公表する大部分の種の同定は、名城大学農学部昆虫学研究室の大草伸治氏にしていた。厚くお礼申し上げたい。

本報で新に記録した地名の詳記は下記の通りである。

Outani : 津名郡津名町大谷 (alt. 50 m)

Nakatsugawa : 洲本市中津川 (alt. 40 m)

Mt. Mikuma-yama : 三熊山 (alt. 133 m)

Mt. Yuzuruha-san : 論鶴羽山 (alt. 608 m)

尚、番号の前に*マークを付したものは、今回淡路島から初めて記録されるもので、これらの標本は名城大学農学部昆虫学研究室と筆者がそれぞれ保管している。

APOCRITA 細腰亜目

Family Ichneumonidae ヒメバチ科

- * 1. *Motopius dissectorius* Panzer ミスジメンガタヒメバチ
Mt. Joryuji-san, 1♂, 22. IX. 1974.
- * 2. *Pterocormus generosus* Smith マダラヒメバチ
Outani, 1♂, 25. V. 1974.
- 3. *Habronyx insidiator* Smith コンボウアメバチ
Outani, 1♂1♀, 25. V. 1974.
- * 4. *Anomalon japonicus* Uchida アミメアメバチ
Mt. Yuzuruha-san, 1♂, 29. VI. 1974.
- * 5. *Ophion obscuratus* Fabricius モンキアメバチ
Omachi-Hata, 1♂, 29. V. 1971, 1♂, 3. IV. 1972, 1♂, 5. IV. 1972,
1♂, 23. II. 1973, 1♂, 30. III. 1973, 1♀, 29. IV. 1973, 1♂, 14. IV.
1975, 1♀, 1. V. 1975, 1♀, 28. IV. 1975, 1♂, 17. III. 1976, 1♂,
16. IV. 1976.
- * 6. *Ophion takaozanus* Uchida ウスグロアメバチ
Omachi-Hata, 4♂, 5. V. 1972, 1♂, 29. IV. 1973 ; Nakatsugawa, 1♂1♀,
4. V. 1972, 1♂, 11. V. 1974, 2♂2♀, 3. V. 1975.
- * 7. *Ophion luteus* Linné アメバチ
Omachi-Hata, 1♀, 3. V. 1972 ; Mt. Yuzuruha-san, 8♀, 4. V. 1974 ;
Mt. Mikuma-yama, 1♂, 2. V. 1976.
- 8. *Ophion orientalis* Uchida
Nakatsugawa, 1♀, 3. V. 1975.
- 9. *Enicospilus shikokuensis* Uchida シコクホシアメバチ
Omachi-Hata, 1♀, 3. V. 1972, 1♀, 29. IV. 1973, 1♀, 13. V. 1975 ;
Nakatsugawa, 1♂3♀, 11. V. 1974.

*10 *Enicospilus yonezawanus* Uchida ヨネザワホシアメバチ
Mt. Joryuji san. 6♀, 7. VII. 1972. 1♂, 7. VI. 1975.

*11 *Stauropogonius bomviciuorus variegatus* Uchida
Mt. Yuzuruha san. 2♂, 25. VIII. 1976.

Family Vespidae スズメバチ科

12. *Parapolybia varia* Fabricius ホソアシナガバチ

Mt. Joryuji-san. 1♂, 22. VIII. 1974; Mt. Mikuma-yama. 1♀, 21. IX. 1974.

*13. *Polistes japonicus fadwigae* Dalla Torre セグロアシナガバチ

Omachi-Hata. 1♀, 24. VIII. 1970; Outani. 1♀, 25. V. 1973.

14. *Polistes jokohamae* Radoszkowski キアシナガバチ

Outani. 1♀, 11. V. 1974.

15. *Polistes mandalinus* Saussure キボシアシナガバチ

Omachi-Hata. 1♂, 24. VIII. 1970.

*16. *Polistes snelleni* Saussure コアシナガバチ

Omachi-Hata. 1♂1♀, 24. VIII. 1970. 1♂, 27. VIII. 1973.

Family Chrysididae セイボウ科

*17. *Chrysis (Chrysis) splendidula* Rossi ツマムラサキセイボウ

Omachi-Hata. 1♀, 12. VIII. 1968.

*18. *Chrysis (C) ignita* Linne リンネセイボウ

Omachi-Hata. 1♀, 27. VIII. 1970.

*19. *Chrysis (Pentachrysis) lusca* Fabricius ミドリセイボウ

Omachi-Hata. 1♀, 3. VIII. 1969. 1♀, 6. VIII. 1969. 1♂, 30. VIII. 1969.

参 考 文 献

1. 氏原信治 (1968) 淡路島の双翅目・膜翅目. PARNASSIUS (5/6): 4-8.
2. 石原 保 (1973) 本四架橋ルート of 昆虫相. 膜翅目. 本四架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書. 動物: 98-101.
3. ——— (1974) ————— (その2) —————
————— : 92-93.
4. 登日邦明 (1973) 淡路島産蜂類覚え書(I). PARNASSIUS (11): 15-17.
5. 堀田 久 (1974) 淡路島産の蜂類について. PARNASSIUS (13): 4-8.

編 集 後 記

- ▽ 当初の予定より大変遅れましたが、10周年記念号をお届けします。記念号の発行に当たりましては、ご多忙のところ貴重な原稿をお寄せいただいた奥谷禎一先生はじめ同学諸氏に、厚くお礼申し上げます。
- ▽ 今回の10周年を機会に、会の名称を淡路昆虫同好会から淡路昆虫研究会に改め、島の昆虫相の解明をはじめとし、より高度な研究を主体とする会に育ててゆきたいと思っております。今後共、ご支援、ご協力をお願いします。
- ▽ 本号より表紙の体裁を変更しました。色は5号毎に変えてゆく予定です。
- ▽ シーズンも終り、採集品の整理に忙しい日々を送られていることと想われますが、次号を明年1月に発行する予定ですので、原稿をどしどしお送り下さい。
- ▽ 鳴門大橋が着工されました。架橋に伴う縦貫道路の建設により、島の自然は大きく変わろうとしています。破壊が進行しないうちに、周辺地域の Fauna を調査しておきたいものです。

(T)

PARNASSIUS №16

1976年11月17日 印刷

1976年11月20日 発行

編集者 登日邦明

発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方

振替 神戸49591

印刷所 れいめい社

〒656 洲本市本町5丁目1番24号